

通水 101 年記念

忌部千本ダム堤体補強改修事業



大正 3 年～7 年 忌部千本ダム建設工事

放乎四海 經百年亦復定礎

孟子 卷ノ第八 離婁章句下の一節「源泉混混 不舍晝夜(げんせんこんこん ちゅうやをおかず) 一中略一 放乎四海(しかいにいたる)」が出典です。

水源の水が昼夜を問わずこんこんと湧き出し、天下中を潤しやがて海に至ることから、水源の大切さを表すとともに、上下水道事業により実現される健全な水循環にも通じています。本市水道発祥の地であり、水循環の起点でもある忌部千本ダムの補強改修にあたり、百年を経て新たな世紀を歩み始めた本市水道事業を象徴する言葉として、再び定礎として刻しました。

揮毫者である島根書道協会会長 曾田左南氏の隸書体の力強い筆致と相まって、市民生活を支える上下水道事業の発展を祈念しています。

なお、「放乎四海」と同一出典の「源泉混混」、「不舍晝夜」の句は、千本ダムと同じ大正 7 年に創設された旧床几山配水池に扁額として掲げられています。

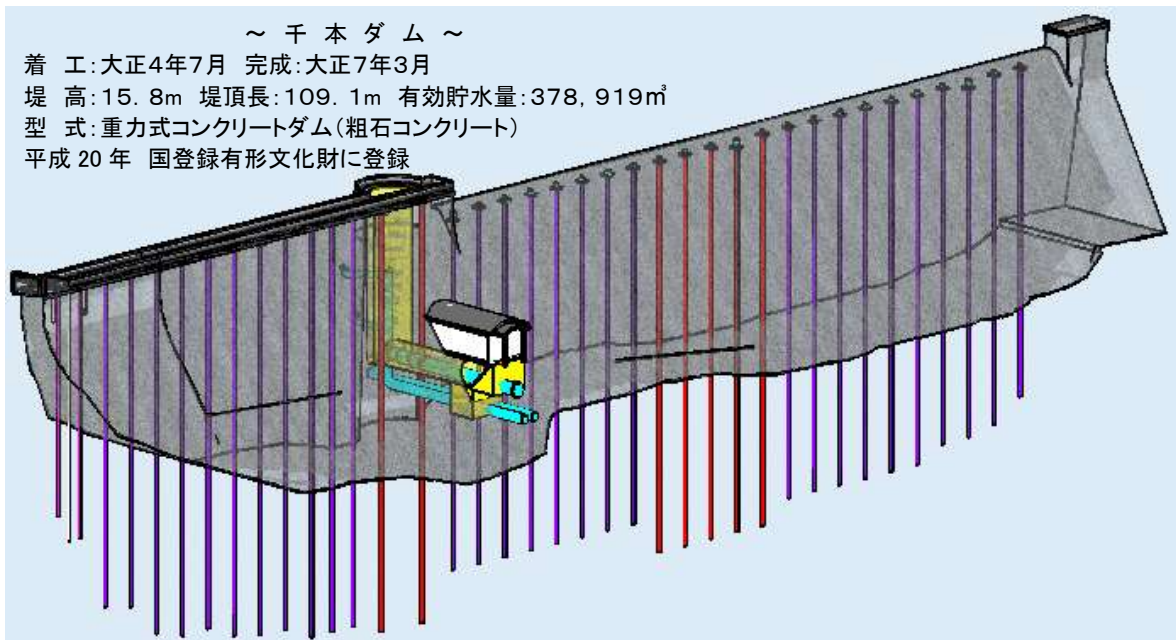
令和元年
松江市上下水道局

千本ダム堤体補強工事

現役のダムとして稼働させながら、同時に登録有形文化財の姿を保存していくため、堤体の天端から鋼線を束ねたアンカーを挿入して支持岩盤に固着させることでダムの強度を高める国内初の工法を採用しました。

【工期】令和元年7月～令和2年7月

【事業費】517,500千円



◎アンカー工法

ダム堤頂部から基礎岩盤に向けて最大φ216mmの削孔及びその孔内にPC鋼材を挿入し緊張・定着する工法です。アンカー工法にてダム堤体を基礎岩盤に固定することにより、大規模地震発生時におけるダム堤体の安定性を確保します。



【予備試験アンカー施工の様子】
アンカー孔 削孔

